

# 長野県北部を震源とする地震における共助による被害抑止

平成27年1月  
消防庁

平成26年11月22日に発生した、長野県北部を震源としたマグニチュード6.7の地震により、長野県白馬村及び小谷村では家屋等に大きな被害を受けた。

しかしながら、深夜の大規模地震にも関わらず、死者を出すことなく人的被害を最小限に食い止めたのは、地元の地域防災力であり、地域防災の中核を担っている消防団及び自主防災組織の活動があったからこそその共助の奏功事例である。

## 被害の状況

※消防庁被害報第21報(平成27年1月5日13時30分現在)

平成26年11月22日22時08分頃、長野県北部において震度6弱の地震が発生。

○ 人的被害：負傷者46名

○ 物的被害：全壊77棟・半壊36棟・一部損壊1,624棟



## 地元の地域防災力(消防団から自主防災組織)

○昭和60年以前は、白馬村、小谷村に常備消防がなく災害時には消防団で対応していたこともあり、両村民の男性の多くが現役の消防団員若しくは、OBである。その結果、両村では防災に対し高い意識を持っている。

○消防団の退団後も自主防災組織の一員として活動し、訓練等に積極的に参加するなど消防団員経験者が自主防災組織の中核を担っており、防災訓練や講習会には、消防団や自主防災組織を中心に、住民の約4分の1が参加している。

○災害時の避難に手助けが必要な高齢者等の住まいなどの情報を地図上に書き込むなど、「支え合いマップ」を作成していた。発災後、もっとも被害が大きかった地区においてマップを活用し、救助活動、避難誘導、安否確認を実施し、1時間半で全世帯の安否を確認した。

## 地元住民の活動(消防団・自主防災組織等)

### ○白馬村神城堀之内地区における倒壊家屋からの救出

#### ・近隣住民による資機材を使用した救出

崩れた家の下敷きになり、布団の中で身動きが取れなくなっていた住民を、10人ほどの近隣住民が協力してジャッキでがれきを持ち上げ、1時間以上かけて布団ごと引きずり出し救出した。

#### ・近隣住民と事業所が協力しての救出

耳と目が不自由で、屋根が崩れ落ちた家の中で動けずにいた住人を、近隣住民3、4人が屋根を持ち上げて救出しようとしたがびくともしなかつたため、近くにある建設会社に協力を求め、重機(フォークリフト)を用いて屋根を持ち上げて救出することができた。

#### ・近所の消防士と近隣住民が協力しての救出

1階の天井が崩れ落ち、家族3人が閉じ込められ、柱が障害となったことにより、自力で脱出することは困難であったが、付近にいた消防士と近隣住民が外から窓ガラスを割り、子供をまず救出し、その後、消防団が常備しているチェーンソーを消防士が使用して、がれきの撤去や障害となっていた柱の切断を行いつつ、3人を救出させることができた。